

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成28年3月31日(2016.3.31)

【公表番号】特表2015-508912(P2015-508912A)

【公表日】平成27年3月23日(2015.3.23)

【年通号数】公開・登録公報2015-019

【出願番号】特願2014-559917(P2014-559917)

【国際特許分類】

G 0 2 C 5/16 (2006.01)

G 0 2 C 5/20 (2006.01)

【F I】

G 0 2 C 5/16

G 0 2 C 5/20

【手続補正書】

【提出日】平成28年2月5日(2016.2.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

アイウェア物品であって、

中央サジタル平面と平行な方向に最大高さ(H)を有する可撓性を有し、前記アイウェア物品の前部から後方に延びるテンブル部であって、前記中央サジタル平面が前記アイウェア物品を仮想的な左半体及び右半体に分割する、テンブル部を含み、

前記可撓性部が、長手方向に配置された第 1 のリブ及び第 2 のリブを含み、前記テンブル部が撓んでいない状態にあるときに、前記第 1 のリブが前記第 2 のリブに対して斜めに配置され、 $H > 20 \text{ mm}$ である、アイウェア物品。

【請求項 2】

前記可撓性部が、長手方向に配置された第 3 のリブ及び第 4 のリブを更に含み、前記テンブル部が撓んでいない状態にあるときに、前記第 3 のリブが前記第 4 のリブに対して斜めに配置される、請求項 1 に記載のアイウェア物品。

【請求項 3】

前記テンブル部が撓んでいない状態にあるときに、前記可撓性部が曲率半径()、 $< 80 \text{ mm}$ を有する、請求項 1 に記載のアイウェア物品。

【請求項 4】

前記テンブル部が接触部を更に含み、 130 mm の幅を有する人間の頭部での使用のために前記アイウェア物品が配置されるときに、前記接触部に第 1 の力(F_1)がかかり、 180 mm の幅を有する人間の頭部での使用のために前記アイウェア物品が配置されるときに、前記接触部に第 2 の力(F_2)がかかり、 $(F_2 - F_1) < 50 \text{ g}$ である、請求項 1 に記載のアイウェア物品。